

愛媛人物博物館収蔵品選

偉人たちの宝

—秋山兄弟、夏目漱石ら25人の名品—



あきやま よしかる
秋山 好古 (1859~1930)

軍人（陸軍大将）。松山城下（現松山市）出身。幼名は信三郎。日露戦争では、世界最強といわれたコサック騎兵を相手に奮戦し、奉天会戦などで勝利に導き、さらに味方の3倍の騎兵団を破るなどの騎兵運用をした。これは、先に著した『本邦騎兵用法論』を実戦に臨んで完成させたものとされ、「わが国騎兵の父」と仰がれる。陸軍大将退役後、北予中学校（現松山北高等学校）校長として後進の育成に尽くした。海軍中將になった秋山真之は実弟である。



あきやま さねゆき
秋山 真之 (1868~1918)

軍人（海軍中將）。松山城下（現松山市）出身。幼名は淳五郎。アメリカ留学により近代海軍戦術を究めた。帰国後は、参謀職を歴任した。日露戦争の際には連合艦隊主席参謀として参戦し、わが国の命運を決定する日本海海戦では、「天気晴朗なれども波高し」の名文を打電し、意表をつく敵前逐次回頭（丁字戦法）により勝利に導いた。俳人の正岡子規は、松山中学校（現松山東高等学校）時代の同級生。陸軍大将になった秋山好古は実兄である。子規や好古とともに主人公として描かれた、司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』は有名である。



やました かめきぶろう
山下 亀三郎 (1867~1944)

汽船会社創設者。宇和郡喜佐方村（現宇和島市吉田町）出身。汽船喜佐丸を購入し海運業を始め、さらに石炭業界や木材業界にも進出した。明治44年に設立した山下汽船会社は、海運業界の大手に躍進した。第二次世界大戦中には、内閣の顧問になった。また、公共的な事業にもよく尽力し、吉田町に山下実科高等女学校（現吉田高校）、母親の生地三瓶町（現西予市三瓶町）に第二山下実科高等女学校（現三瓶高校）を設立した。



まさおか しき
正岡 子規 (1867~1902)

俳人。歌人。随筆家。松山城下（現松山市）出身。本名常規、通称升。東京大学予備門（第一高等中学校と改称）に入学後、帰省の際に和歌や俳句を学び関心を深めていった。帝国大学文科大学（現東京大学）に入学後さらに文学熱を高め、俳句に開眼、写実的態度を確立した。明治25年の発病後も不屈の気迫で俳句や随筆などの創作や短歌の研究を続けるとともに継承者の育成にも努め、近代文学革新の実をあげ、与謝蕪村や万葉集など埋もれていた作家や作品を発掘した。



にった ちょうじろう
新田 長次郎 (1857~1936)

学校創設者。実業家。温泉郡山西村（現松山市）出身。大阪に出て製革所に勤めるが、その後、独立して工業用ベルトを中心とする製革業や関連事業を興し成功した。一方、大阪で勤労少年のために小学校を私費で設立したり、ふるさと松山で松山高等商業学校（現松山大学）の設立にもかかわるなど、教育の振興にも力を注いだ。また、大阪における工業人の集まりである大阪工業会の設立にも尽力した。現在でも、松山大学の同窓会は、長次郎が温山と号したことから、「温山会」と呼ばれている。



さくらい ただよし
桜井 忠温 (1879~1965)

小説家。軍人。松山城下の小唐人町（現松山市）出身。陸軍士官学校を卒業後、日露戦争に従軍した。旅順を攻撃したときの戦闘で重傷を負い、療養中に実戦体験を記した『肉弾』を執筆し、戦記文学の先駆けとして広く読まれた。また、世界14カ国語に翻訳され、日本が肉弾をもって戦勝をかち得た経緯を世界に紹介した。その後、軍隊に所属しながら、また、予備役編入後も多くの著書を著した。



みずの ひろのり
水野 広徳 (1875~1945)

軍事評論家。軍人。和気郡広町（三津町と総称された港町の一部、現松山市）出身。日露戦争の旅順口閉塞や日本海海戦に参加。軍人としての活動のかたわら、軍事関係の著述活動も行う。明治44年に出版した『此一戦』は、桜井忠温の『肉弾』とともに戦記文学の双璧とされ、広く読まれた。第一次世界大戦直後にヨーロッパへ留学した際、現地での惨状を目の当たりにし、人道的平和主義者へと思想的な大転換を遂げる。その後ほどなく退役するが、退役後も筆を休ませることなく、太平洋戦争に向かう社会情勢の中で、日米の対立激化を憂慮するような著述を出し続けた。



もり かずお
森 一生 (1911~1989)

映画監督。松山市出身。京都帝国大学（現京都大学）卒業後映画界に入り、伊藤大輔監督に師事した。日活、第一映画社を経て新興キネマ「仇討膝栗毛」で監督としてデビューする。兵役のあと大映に復帰。母ものの「山猫令嬢」、社会劇「わたしは情婦」、喜劇「極楽夫婦」、時代劇「銭形平次」「決闘鍵屋の辻」とあらゆるジャンルを手がけ、戦後の映画黄金期を支えた。長谷川一夫や市川雷蔵らと組んで、映画の娯楽性と芸術性の統合をめざし、百本以上の作品を監督した。



さいおんじ げんとう
西園寺 源透 (1864~1947)

郷土史研究者。宇和郡川内村（現宇和島市）出身。村長・郡会議員・県会議員などを歴任し、また会社役員なども務め、愛媛の政財界で活躍。その後、景浦稚桃らと「伊予史談会」を設立し、郷土資料の収集整理や古文書の研究に専念した。その編著の多くは、県立図書館と、松山大学の富水文庫に所蔵され、今なお学界に役立っている。また、その進取的態度は、郷土史研究者の手本になっている。



あおち りんそう
青地 林宗 (1755~1833)

蘭学者。松山城下（現松山市）出身。江戸の杉田玄白の門下生として蘭学を修め、西洋医学を学んだ。一時、松山に帰り家督を継ぐが、その後、大坂・長崎に遊学し研修を積み、再び江戸に出て医者となる。文政5年に天文方の翻訳方となり、医学・薬学・地理学・物理学・化学の蘭書を勉強し、翻訳や著述に活躍する。中でも、著作『気海観瀾』は、日本で初めての物理学書として高く評価される。



まなべ かいちろう
真鍋 嘉一郎 (1878~1941)

医学者。新居郡大町村（現西条市）出身。愛媛県尋常中学校（現松山東高等学校）で夏目漱石に学び、第一高等学校を経て東京帝国大学医科大学（現東京大学）を卒業した。内科学で理学療法研究のため3年間ドイツに留学し、帰国後、物療内科という新分野を開拓。後に同大学の教授として、内科物理療法学の講座を開いた。「医学の最後の目的は治すこと」という信念のもと夏目漱石や浜口雄幸などの著名人の主治医を務めた。



ほづみ しげとだ
穂積 重遠 (1883~1951)

民法学者。東京府深川（現東京都）出身。民法の分野の家族法研究に業績を示し、『相続法』、『法学通論』、『新民法読本』など多くの書を著した。法律の民衆化、社会化についての功績も大きく、早くから法文・判決文の口語化を提唱した。東宮大夫兼侍従長として皇太子（今上天皇）の傅育にあたり、また、貴族院議員、最高裁判所判事を務めた。父は民法学者の穂積陳重である。



あべ よしなが
安倍 能成 (1883~1966)

学習院院長。哲学者。松山城下の小唐人町（現松山市）出身。東京帝国大学（現東京大学）で哲学を学んだ後、慶應義塾大学・法政大学・第一高等学校などの講師を歴任。哲学、哲学史研究のため、ヨーロッパへ留学し、帰国後、京城大学教授・同法文学部長・第一高等学校長を歴任。幣原喜重郎内閣で文部大臣に就任し、戦後の文部行政の刷新を図った。その後、帝室博物館長・学習院院長を兼務した。平和主義に徹したリベラリストとして活躍。



おおの さくたろう
大野 作太郎 (1886~1968)

地質学者。北宇和郡下鍵山村（旧日吉村、現鬼北町下鍵山）出身。師範学校を卒業し、北宇和郡の小学校教員、校長を歴任した。青年時代から地質学に興味を持ち、南予地方の地質調査や化石採集に尽力した。中でも大正12年城川町魚成田穂（現西予市城川町）で発見したアンモナイトは、当時第三高等学校教授で地質学の権威であった江原眞伍博士により、「ミーコセラス・オオノイ・エハラ」と命名され、地質学上世界的な発見として注目を浴びた。



おがわ なおよし
小川 尚義 (1869~1947)

教育者。台湾語研究者。松山城下の一番町（現松山市）出身。帝国大学文科大学博言科（現東京大学）卒業。昭和5年、台北帝国大学文理学部教授となり台湾語の研究に精進した。台湾語を専門とし、『日台大辞典』、『台日大辞典』2巻を著した。また、『原語による台湾高砂族伝説集』を共著で著し、学士院恩賜賞を受賞した。一方、趣味で能楽を楽しみ、同郷の宝生弥一、川崎九淵らと交流があった。



いしい なんぽう
石井 南放 (1912~1991)

日本画家。温泉郡難波村(旧北条市、現松山市上難波)出身。本名は進。東京美術学校（現東京芸術大学）卒業。昭和35年頃より研究を始めた吉田蔵澤の墨竹に感銘を受け、以後傾倒。水墨の世界にわが道を見いだす。画題の多くは、樹、特に松に集約される。吉田蔵澤の研究者としても知られ、「竹の蔵澤」、「松の南放」と評された。戦後愛媛の美術界の立て直しに大きく貢献。



ささき にろく
佐々木 二六 (1857~1935)

陶芸家。宇摩郡村松村（現四国中央市村松町）出身。本名六太郎。代々瓦製造に携わる家に生まれる。その後、焼物を志し、各地の窯元を訪れて、研究を重ねる。明治20年、相馬焼に着想を得て、村松村に二六焼を創設する。以後、内外の展覧会、博覧会に数多く出品し、何度も受賞。宮内省への献上もあった。へらで形づくり、独特の彩色と釉薬を施した写実的な人物、万年青などの植物、アカテガニや虎などの動物を得意とした。



くぜ りゅう
久世 竜 (1908~1985)

殺陣師。東宇和郡中筋村（現西予市野村町）出身。本名は河野幸政。名優月形竜之介に殺陣をつけたのが縁で久世竜と改名した。やがて、東宝に移り黒澤明監督と出会ってから殺陣師としての才能を発揮していった。資料、文献をしっかりと研究したうえでの計算された彼の殺陣は、本当に斬っているように思わせるリアリズムを重視したもので、槍、刀、素手での鮮やかな立ち回りは人々を驚かせた。黒澤、三船コンビの映画にはなくてはならない存在であった。



すえひろ てっちよう
末広 鉄腸 (1849~1896)

政治小説家。新聞記者。宇和島城下（現宇和島市）出身。幼名は雄次郎、後に重恭と改める。「東京曙新聞」などの編集長となり、問題記事による事件を起こしながらも屈することなく自由民権を積極的に唱え、政治運動に奔走した。その後、小説を通じて民衆の政治意識を高め、自由民権や政党政治を実現しようと、政治小説の執筆を始めた。生涯で20余編を刊行し、政治小説『雪中梅』などが広く読まれた。



なつめ そうせき
夏目 漱石 (1867~1916)

小説家。江戸牛込馬場下横町（現東京都）に生まれる。本名は金之助。帝国大学文科大学英文科（現東京大学）を卒業し、愛媛県尋常中学校（現松山東高等学校）の英語教師として松山に赴任。子規と愚陀佛庵に同居し、俳句に目覚める。ロンドン留学の後、高浜虚子のすすめで「吾輩は猫である」を『ホトトギス』に連載、文名を挙げる。これが機縁で文学生活に入り「坊っちゃん」、「草枕」などを発表する。以後、朝日新聞社に入社し「三四郎」、「こゝろ」などの作品を連載し、文豪として不動の地位を築いた。



もり しげお
森 茂雄 (1906~1977)

野球監督。松山市萱町出身。松山商業学校（現松山商業高等学校）野球部、早稲田大学野球部で活躍後、松山商業学校の監督となり、夏の甲子園初優勝を成し遂げる。その後、大阪タイガースの初代監督などを経て、早稲田大学の監督となり、在任10年の間に9度優勝という黄金期を築いた。また、大洋ホエールズの球団代表や川崎球場社長なども歴任。昭和52年、野球殿堂入りした。



たかはた せいいち
高畑 誠一 (1887~1978)

総合商事会社の創設者。喜多郡内子村（現内子町）出身。鈴木商店に入社してロンドン支店長となった彼の働きで、鈴木商店は三井、三菱と並ぶ大商社になり、一時は年間貿易額が日本一になったこともあった。昭和恐慌で鈴木商店の倒産後、他の者と一緒に日商（後の日商岩井）を設立し、わが国屈指の総合商社に育てるとともに、世界に冠たる日本商社マンの原型づくりに貢献した。また、地元愛媛県の内子町で高畑奨学資金の制度を開設して人材育成にも力を注いだ。わが国ゴルフ界の草分けであり、本場仕込みのプレーヤーであった。



あさしお たろう しょだい
朝汐 太郎 (初代) (1865～1920)

大相撲大関。宇和郡八幡浜浦（現八幡浜市）出身。本名は増原太郎。最初、大阪相撲の押尾川部屋に入ったが、その後、東京相撲の高砂部屋に入門して「朝汐」を名乗り、大関にまで昇る。得意技は、右四つ寄り、上手投げ。幕内での取り組みは、138勝76敗31分け12預り。引退後、年寄「佐野山」を襲名。「朝汐」もしくは「朝潮」の名は、代々高砂部屋のシンボルとなった。



まえだやま えいごろう
前田山 英五郎 (1914～1971)

大相撲第39代横綱。西宇和郡喜須来村（現八幡浜市保内町）出身。本名は萩森金松。高砂部屋入門後、途中再起不能といわれた骨髄炎にかかりながらも奇跡的に復帰し、大関を9年18場所務めた後、戦後初の横綱となる。闘志あふれる取り口と強烈な張り手は有名である。引退後は、第4代高砂浦五郎を襲名し、高砂一門を率いる。大相撲の海外巡業を実現し、外国人力士第1号の高見山を育てるなど、大相撲の国際化に貢献する。幕内成績は、206勝104敗39休、勝率6割6分5厘、優勝1回。



つるた よしゆき
鶴田 義行 (1903～1986)

水泳選手。オリンピック金メダリスト。鹿児島市出身。水泳選手として、第9回アムステルダムオリンピック大会と第10回ロサンゼルスオリンピック大会において200m平泳ぎで連続優勝という偉業を成し遂げた。戦後、妻の出身である松山市に居住し、愛媛県体育協会の理事や水泳連盟の理事長に就任し、愛媛県の水泳界の発展に寄与した。

偉人たちの宝—秋山兄弟、夏目漱石ら25人の名品— 展示資料一覧

| 展示構成 | 展示資料 | 形態 | 数量 | 所蔵・提供者 |
|-----------------------------|------------------------------|-------|----|--------|
| I 偉人たちの宝～秋山兄弟と周辺の人々～ | | | | |
| I-1 秋山兄弟の遺品 | | | | |
| | 秋山兄弟が学んだ漢籍 | 実物 | 3 | |
| | 明治初期の小学校教科書『日本地誌略』 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「旧日本陸軍大将正装(大礼服)」 | 実物 | 1式 | |
| | 秋山好古「大礼服収納カバン」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「手袋」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「指揮刀」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「将校行李」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「招待状」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「献立一覧表」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「メダルを首にかけた馬(写真)」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「北予中学校長時代の好古①(写真)」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「北予中学校長時代の好古②(写真)」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山好古「壇上に立つ秋山好古(写真)」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山真之「指揮刀」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山真之「軍帽」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山真之「帽子ケース」 | 実物 | 1 | |
| | 秋山真之「書簡(稻生真履宛)」 | 実物 | 1 | |
| I-2 秋山兄弟と周辺の人々 | | | | |
| | 正岡子規「短冊 十年の汗を道後のゆに洗へ」 | 実物 | 1 | |
| | 正岡子規「仰臥漫録」 | 複製 | 1 | |
| | 新田長次郎「金色地球印ベルト」 | 実物 | 1 | |
| | 新田長次郎「書幅 精神一到何不成」 | 実物 | 1 | |
| | 新田長次郎「清浦奎吾元総理の来訪(写真)」 | 実物 | 1 | |
| | 新田長次郎「秋山好古の来訪(写真)」 | 写真パネル | 1 | |
| | 山下亀三郎「吉田丸模型」 | 実物 | 1 | |
| | 山下亀三郎「勲一等瑞宝章勲章・勲記」 | 実物 | 1式 | |
| | 山下亀三郎「山下汽船記念式典(写真)」 | 実物 | 1 | |
| | 山下亀三郎『沈みつ浮きつ』 | 実物 | 2 | |
| | 山下亀三郎「手縫いの着物」 | 実物 | 1 | |
| | 山下亀三郎「第三吉田丸進水式用鑿及び金鎚」 | 実物 | 1 | |
| | 山下亀三郎「秋山真之臨終の家(写真)」 | 写真パネル | 1 | |
| I-3 日露戦争から生まれた文学・映画 | | | | |
| | 西園寺源透「萬歳雙六」 | 実物 | 1 | |
| | 桜井忠温『肉弾』 | 実物 | 1 | |
| | 桜井忠温『HUMAN BULLETS』 | 実物 | 1 | |
| | 水野広徳『此一戦』英語版 | 実物 | 1 | |
| | 水野広徳らが編纂した秋山兄弟の伝記 | 実物 | 2 | |
| | 森一生「脚本 日露戦争勝利の秘史・敵中横断三百里」 | 実物 | 1 | |
| | 森一生「スチール写真日露戦争勝利の秘史・敵中横断三百里」 | 実物 | 4 | |

| II-1 学問・教育 | | | |
|--|-------|-----|----|
| 青地林宗『気海観瀾』 | 実物 | 1 | |
| 穂積重遠「書簡(山下亀三郎宛)」 | 実物 | 1 | |
| 小川尚義「日本帝国海外旅券」 | 実物 | 1 | |
| 小川尚義『原語による台湾高砂族伝説集』 | 実物 | 1 | |
| 小川尚義『新訂台日大辞典』 | 実物 | 1 | |
| 安倍能成「直筆原稿 自叙伝『我が生ひ立ち』」 | 実物 | 1 | |
| 安倍能成「自叙伝『我が生ひ立ち』記事(雑誌『心』掲載)」 | 実物 | 1 | |
| 安倍能成『我が生ひ立ち-自叙伝-』(岩波書店) | 実物 | 1 | |
| 安倍能成「直筆原稿 高浜虚子への弔辞」 | 実物 | 1 | |
| 安倍能成「失望しても絶望してはいけない」 | AV | 1 | |
| 真鍋嘉一郎「手当給付証」 | 実物 | 1 | |
| 大野作太郎「岩石採集ハンマー」 | 実物 | 1 | |
| 大野作太郎「岩石採集用リュックサック」 | 実物 | 1 | |
| 大野作太郎「地形図 5万分の1」 | 実物 | 1 | |
| II-2 アート(芸術・文芸・芸能) | | | |
| 初代・佐々木二六作「布袋像」 | 実物 | 1 | |
| 石井南放「老松遍路」 | 実物 | 1 | |
| 映画『椿三十郎』で久世竜が生み出した逆抜き不意打ち斬り(写真) | 写真パネル | 1 | 個人 |
| 殺陣を指導する久世竜(写真) | 写真パネル | 1 | 個人 |
| 久世竜「技芸者之證」 | 実物 | 2 | |
| 久世竜「脚本 無法松の一生」 | 実物 | 1 | |
| 久世竜「パンフレット 無法松の一生」 | 実物 | 1 | |
| 久世竜「脚本 隠し砦の三悪人」 | 実物 | 2 | |
| 久世竜「脚本 用心棒」 | 実物 | 2 | |
| 久世竜「脚本 椿三十郎」 | 実物 | 1 | |
| 久世竜「脚本 影武者」 | 実物 | 1 | |
| 久世竜「殺陣師の日記」 | 実物 | 1 | |
| 久世竜が出演、殺陣師として指導した「日本映画の名作」ポスター | 実物 | 6 | 個人 |
| 末広鉄腸『雪中梅』 | 実物 | 2 | |
| 末広鉄腸「遺言(友人宛)」 | 実物 | 1 | |
| 末広鉄腸「遺言(家族宛)」 | 実物 | 1 | |
| 夏目漱石「直筆葉書(狩野亨吉宛)」 | 実物 | 5 | |
| II-3 スポーツ | | | |
| 森茂雄「森茂雄監督大阪タイガースユニフォーム」 | 実物 | 1 式 | |
| 高畑誠一「愛用のゴルフ用品」 | 実物 | 2 | |
| 初代・朝夕太郎「レリーフ」 | 複製 | 1 | |
| 初代・朝夕太郎「横綱免許状」 | 複製 | 1 | |
| 前田山英五郎「愛用の革靴」 | 実物 | 1 | |
| 鶴田義行「アムステルダムオリンピック 男子水泳 200 元平泳ぎ 金メダル」 | 実物 | 1 | |
| 鶴田義行「アムステルダムオリンピック 男子水泳 200 元平泳ぎ 使用水着」 | 実物 | 1 | |
| | | 94 | |

※所蔵・提供者欄が空白のものは当館所蔵。

本日はご来館ありがとうございました。
また来てね！



〒791-1136

愛媛県松山市上野町甲 650 番地
愛媛生涯学習センター

愛媛人物博物館

TEL : 089-963-2111

URL : <http://www.i-manabi.jp/>

本日はご来館ありがとうございました。
また来てね！



〒791-1136
愛媛県松山市上野町甲 650 番地
愛媛生涯学習センター

愛媛人物博物館

TEL : 089-963-2111
URL : <http://www.i-manabi.jp/>